

自己評価・施設関係者評価 結果公表シート

認定こども園 桜の宮こども園

1. 教育・保育 目標

- ・教育・保育の質の向上、子ども一人一人を大切にされた保育内容の充実を全職員で共通理解を深めながら運営を行う。
- ・様々な視点から、子どもを中心に考える教育・保育の充実とは何なのかを具体的な課題としてあげ、計画的にすすめて実行していく。
- ・乳幼児と老人の共生を実践する中で、社会状況に応じた関わりを重ね、共に育ちあえる関係性をより構築できるように努め、認定こども園雄岡山独自の幼老共生の確立を目指す。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した評価の具体的な目標や計画

- ・新園舎で一から教育保育を行う中で、内容や環境全てにおいて初めての事なので、客観視して共に内容精査を行っていく。
- ・環境構成の現状と改善点の懸案
- ・職員間の連携

3. 自己評価の実施内容と評価項目の達成及び取組状況

自己評価実施時期	令和5年11月27日(月)～12月4日(月) 14:00～15:00
参加者	園長、主幹保育教諭、クラス担任職員

評価項目	評価・結果	理由
(1) 教育保育の研鑽	C	全園児が一からの関わりで、子ども理解と教育保育の同時進行の中、今の教育保育を客観視してたくさんの意見が欲しい。
(2) 環境構成の現状	C	模索しながらの環境構成で、様々な角度から意見をもらい、子どもの安定できる環境構築を目指す
(3) 職員間の連携	C	広い環境の中で、意識して連携は取っているがまだまだスムーズにいかない。連携の在り方を共に考えたい。

4. 評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

評価・結果	理由
C	<ul style="list-style-type: none">・教育保育の研鑽 一からの組み立てである教育保育内容に対し、努力は見られるが更に向上が必要・環境構成の現状 現状で良しとせず、豊かな環境を活かす構成を考え、模索しながら取り組む・職員間の連携 連携の必要性を再確認し、在り方を考える

※「3」「4」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

5. 公開保育の実施内容

実施日程	令和5年12月12日(火) 9:30~14:30
参加者	園長、主幹保育教諭、保育アドバイザー、保育教諭(12名) 【外部】統括園長、おっこう山(2名) 山のまち(2名) 小規模すずきた(1名)
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・みてみて保育 ・屋上園庭で合同活動 ・各保育室での教育保育実践 ・ディスカッション

6. 施設関係者評価

山のまち 参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の環境で室内が広く構成されているので、あそびと生活面が無理なく取り組んでいる。 ・3, 4歳の部屋が繋がっているため、あそびも連携取りやすい状況。 ・子どもたちも落ち着いて過ごしているため、今年度からスタートしたとは思えない。
おっこう山 参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・コーナーが設けられていて、子どもが興味あるあそびに集中していた。コーナーの場所の変更を検討した方が一層あそび込める。 ・色んな素材を使ってあそびが広がっていた。たくさん素材や玩具があるので、もう少し収納場所を工夫した方がより良いと思う。
小規模すずきた	<ul style="list-style-type: none"> ・視角に訴えるような環境や、ゆたかに玩具が揃えられていてあそびの展開に幅が広がりそう。 ・1, 2歳児のフロアがワンフロアになっていて連携は取りやすいように思う。あそびの組み立てに工夫が必要。
統括園長	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの作った作品は、その子の分身のようなもの。ただ、作っては崩し、また作り直す経験も子どもには必要。作品を飾る事のみが目的とせず、写真展示等、色んな方法があってもよい。 ・ゆたかな環境なので、緩やかな異年齢交流が持てたら、もっと子どもの育ちに広がりを持てる。色々な関わりをコーディネートしていくのが保育者の役割。 ・細かい課題はあっても、子どもたちが笑顔で楽しく過ごしているのは、新しい園舎で新しい子どもたちを迎えた教育保育の組み立ては、大変な面もあったと思う。そこを創意工夫しながら懸命に向き合ってくれた証拠。

7. 今後取り組むべき課題

課題	取組み方法
教育保育の研鑽	・一から始まった新園だからこそ、法人全体で教育保育の在り方に向き合っていく事が重要。色んな意見を持ち寄る事で見えてくる。
環境構成の現状	・ゆたかだからこそ、環境の検討が不可欠。視覚で訴えるのは重要だが情報量が多くなりすぎないようにする事で、子どもの安心できる環境を作る。
職員間の連携	・インカムを全員が付ける事で、共有ツールが一つ持てる。その他、連携は新園だからこそ、色んな方法でとっていく工夫をする。